

第4学年 社会科 学習指導案

本時の主張

本時は、栗ノ木排水機場ができる前とできた後の亀田郷の地図を比較し、変化を読み取ることを通して、稲作の労働時間が減った理由について考える授業である。子どもは、乾田化された美しい田がかつては芦沼と呼ばれた泥田であったことは知っているが、いつ、どのように乾田化がなされたのかについてはほとんど知らない。そこで、以下の手立てを講じることで、亀田郷の土地改良の様子を読み取らせたい。

- ① 稲作の労働時間の変化を示すグラフを提示し、なぜわずか20年で急激に減ったのか疑問をもたせる。
- ② 2枚の地図の比較を通して、なぜ労働時間が急激に減ったのか理由を見付けさせる。
- ③ 班で資料を調べ、まとめる活動を通して、土地改良の様子や稲作の変化をとらえさせる。

これらの手立てにより、子どもは、土地改良と稲作の変化を結び付けて考えたり、亀田郷の発展を目指した先人の思いを感じたりしながら、亀田郷発展の歴史を読み解いていく。

1 単元名 「水とのたたかい～亀田郷の人々の暮らし～」

2 単元の目標

亀田郷の土地改良の歴史や稲作の変化について調べたり、水害のない亀田郷を維持していくための工夫について考えたりすることを通して、亀田郷の土地改良に取り組んできた先人の工夫や努力についての理解を深める。

3 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
亀田郷の乾田化を進めてきた先人の工夫や努力、水害のない亀田郷を維持していくために必要なことについて、進んで考えようとしている。	亀田郷の土地改良の様子と、稲作の様子の変化や人々の暮らしの変化とを結び付けて考えたり、表現したりしている。	亀田郷の今と昔の土地の使われ方の変化、稲作の様子の変化などについて、資料を活用し、読み取っている。	亀田郷の土地改良を目指した先人の思い、土地改良の様子、稲作の変化の様子について理解している。

4 単元と指導の構想

(1) 単元と児童

① 単元について

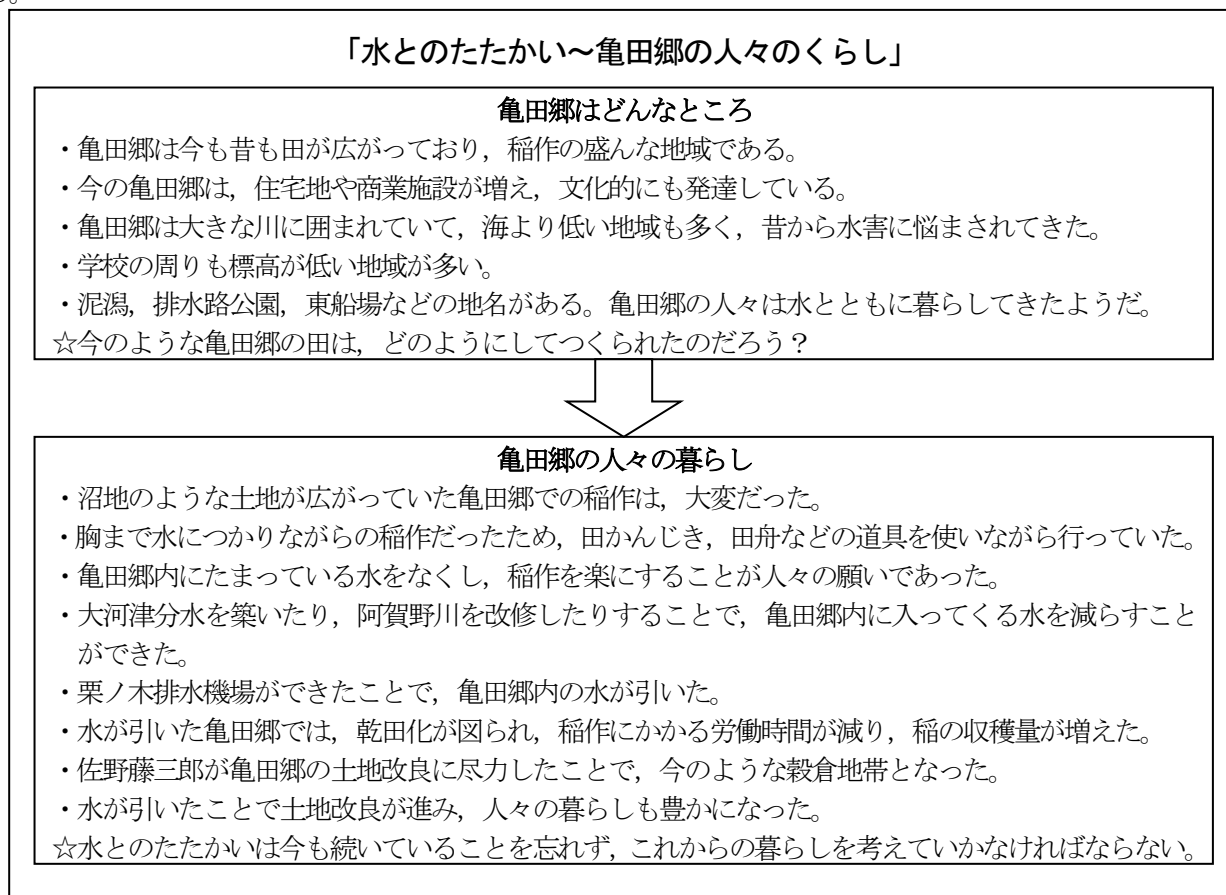
本単元では、子どもが暮らす地域である亀田郷を教材化する。「地図にない湖」と言われていた亀田郷は、地形上、幾多の水害に悩まされ続けてきた。特に稲作農家は、胸までつかる水の中で、命がけで米作りに取り組んできた。当時の亀田郷の人々は、その水とたたかい、田の乾田化、土地改良を進めるために、様々な工夫、努力を積み重ねてきた。現在の自分たちの暮らしがあるのは、亀田郷で水と戦い続けた先人のおかげである。過去と現在とを先人の業績で結び、人の営みに焦点を当てて考える活動を通して、人々の暮らしが豊かになってきたことをとらえさせたい。また、亀田郷の水とのたたかいは現在も続いている。子どもにはこの事実を理解させるとともに、水害のない亀田郷を維持していくために、何が必要なのか、どうしていかなければならないのかについても考えさせたい。上記のような活動を通して、亀田郷のこれからの姿について自ら考えるような、公民的資質の基礎を育みたい。

「学習指導要領解説 社会編」では、本単元にかかわる学習内容について、「地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり、年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする」と記述されている。また、本単元の学習の具体的なポイントは、次の通りである。

- 開発、教育、文化、産業などの面で、地域の発展に尽くした先人の具体的事例のいずれかを取り上げる。
- 地域の発展に対する先人の願いや工夫、努力、苦心、地域の人々の生活が向上したことなどを具体的に調べる。
- 上記の2つを通して、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考える。

本単元において、学習指導要領の内容を踏まえつつ、亀田郷での先人の工夫や努力、人々の暮らしについて学習

を進めていく際に、単元を通して子どもが獲得していく知識や、子どもの意識の流れを図示すると、以下のようになる。



本単元を通して、水に苦しみ、戦い続けた亀田郷の人々の映像や写真などの具体的資料を提示し、当時の沼地の実態、人々の苦労や思い、努力の足跡を知ったり、土地改良の様子と人々の暮らしを関連付けたりしながら、亀田郷の過去・現在・未来について考えさせていきたい。

② 児童について

本単元では、亀田郷の土地の特徴や土地利用の様子、洪水を起こさないように河川改修に力を注いだ人々の工夫や努力、亀田郷内のたまり水を排水するために力を注いだ先人の工夫や努力などについて調べたり考えたりする活動が展開される。資料から読み取ったことを生活経験と結び付けて考える活動、予想を立てる活動を授業展開の中心に位置付け、社会的事象の見方や考え方を養いながら、子どもの思考力・判断力・表現力を育てていきたい。

(2) 指導の構想

社会科の授業において目指している子どもの姿は、「社会の仕組みや人の営みの意味を考えようとする子ども」である。この姿を本単元で具現するためには、亀田郷の水害に苦しんでいた人々がどんな思いをもっていたのか、その思いを実現するために、どんな行動に出たのか、その結果、亀田郷はどう変わっていたのかについて考えさせることが大切である。今の亀田郷での暮らしを工夫や努力によって作ってきた先人の業績にふれさせることで、自分の暮らしとの結び付きを実感させるとともに、自分もこれからの社会をつくっていく一人であることを感じさせるきっかけとしたい。

上記のような考えのもと、本単元では主に、次の3つの手立てを講じていく。

① 子どもの考えを揺さぶったり疑問が生まれりするような資料の提示

子どもの「おもしろそう」「調べてみたい」「考えてみたい」という意欲を引き出すためには、「なぜだろう」「思っていたことと違う」「～だと思っけど、実際はどうなんだろう」という思いをもつことができるような資料を提示することが大切である。思考のずれを生むような資料、これまでの知識を覆すような資料、興味を引く資料などを提示することで追究意欲を高め、子どもとともに学習課題を設定することができるようにしたい。本単元で用いる主な資料は、以下のものである。

- ・ 泥田農業の様子を示す映像資料や写真資料
- ・ 昔と今の稲作の時期の違いを示す農作業ごよみ

- ・昔の稲作で使っていた道具の写真資料
- ・亀田郷の田の特徴を示す写真資料
- ・亀田郷の航空写真 など

また、本単元では様々な種類の地図も積極的に活用していく。使う地図は、以下のものである。

- ・亀田郷の土地利用の様子を示す白地図
- ・亀田郷の標高を示す絵や白地図
- ・栗ノ木排水機場ができる前の亀田郷の地図
- ・親松排水機場ができる直前の亀田郷の地図
- ・用排水路、排水機場、揚水機場が書き込まれた地図 など

上記のような写真資料や地図等を提示することで、亀田郷の今と昔を比較させながら、沼地だった当時の様子、人々の苦労などを具体的にとらえさせる。そして、子どもの思考を揺さぶったり、疑問がうまれたりする資料を活用した活動を仕組むことで、資料活用能力を育みながらも、社会的事象を多面的にとらえることができるような授業をつくっていききたい。

また、本単元では、学校周辺の標高表示や地名、石碑など、身近なものの教材化も試みたい。子どもが普段から目にするものを授業の中で取り上げることで、より自分事として考えようとする姿を目指したい。

② 事象の違いや変化を見付け、その原因や理由を考える活動の設定

これまでの社会科の授業において、「調べる」活動とともに、社会の仕組みや人の営みの意味について「考える」活動を大切にしてきた。本単元においても、資料等を使って調べたり考えたりする際に、資料を比較し、違いや変化の原因、理由について考える活動を積極的に取り入れていく。違いや変化の原因、理由を考える際には、既知の知識を関連付けながら根拠となる考えを導き出すような思考が必要である。この思考は、思考力・判断力を育むために特に大切である。また、資料から考えの根拠を導き出すことで、資料を活用する力も育むことができる。

本単元では、次のような場面で違いや変化の原因、理由を考えさせたい。

- ・稲作に使う道具の変化から、今と昔の稲作の違いを考える。
- ・昔の亀田郷の稲作や田の様子の違いから、当時の人々がどんな願いをもっていたか考える。
- ・なぜ亀田郷の水害が減ったのか、今と昔の地図を比較して考える。
- ・なぜ亀田郷の稲作にかかる労働時間が急激に減ったのか、理由を考える。
- ・佐野藤三郎が取り組んできたことから、佐野の亀田郷発展に向けた思いについて考える。
- ・昭和40年代と現代の地図を比較し、水害を起こさないために今も行っていることについて考える。

単元を通して社会的事象に対して根拠を基に考える経験を積むことは、社会的事象をより自分事として考えていくきっかけになると考える。また、先の見えないこれからの社会を生きる子どもに、未来を予測しながら生きる力や社会の形成者として必要な公民的資質を育むこともできると考える。亀田郷の今、昔、未来について考えることをきっかけとして、自分なりの考えをもち、たくましく生きていく子どもの素地を育みたい。

③ 考えや理解を深める班や全体での意見交流の設定

本単元では、班で考えを交流する活動を、授業の中心的活動として位置付けていく。具体例を以下に2点挙げる。

- ・昔稲作で使っていた道具と今の道具を比較し、道具の変化について調べた後、なぜそのような道具を使っていたのか、考えた理由を班のメンバーで伝え合いながら、昔の稲作の特徴について考えをまとめていく活動。
- ・「なぜ亀田郷の稲作にかかる労働時間が急激に減ったのか」について、昭和22年と昭和43年の地図を比較して違いを探した後、なぜその事実が労働時間の減少につながったのかを考える活動。

学級内には様々な見方・考え方をもった子どもがいるため、同じ資料を見たとしても、そのとらえは子どもによって異なる。よって、意見交流の機会をもつことで、自分の考えと友だちの考えを比較し、類似点や相違点を見出したり、互いの考えのよさを見付けたりすることができる。加えて、社会的事象について多面的に考える力が育まれたり、考えや理解を深めたりすることができる。と考える。

また、班での活動を位置付けることで、全員が自分の考えを発表する機会が保障されるため、表現力も高まっていく。

授業の終末では、各班から出された考えからキーワードになる言葉を見付けたり、うまくまとめられている班の考えを活かしたりしながら、その時間のまとめを子どもとともにつくっていく。仲間の考えに学びながら、亀田郷の先人の工夫や努力、暮らしの変化などについて、考えやとらえを広げていくような姿を目指したい。

5 単元の指導計画 (全 15 時間)

時	学習のねらい (○) と主な活動内容 (・)	評 価				
		関	考	技	知	評価規準
1 2 3	○学校周辺を歩き、学校周辺の標高や現在の土地の様子を調べ、亀田郷の特徴に関心をもつ。 ・学校周辺の標高や地名を調べる。 ・学校周辺の様子を地図で調べる。	○				○亀田郷の特徴について調べていこうという意欲をもつ。 (観察・ノート)
4	○亀田郷の昔と今の土地利用の変化の様子を調べ、特徴をとらえる ・土地の使われ方を示す地図を色分けし、どんな変化があるかを調べる。				○	○亀田郷は今も昔も田が広がっていたことをとらえる。 (観察・ノート)
5	○亀田郷の標高の様子を調べ、亀田郷の土地の特徴をとらえる。 ・亀田郷の標高を示す白地図を色分けし、どんな特徴があるかを調べる。			○		○亀田郷は海よりも低い土地が広がっていることをとらえる。 (発表・ノート)
6	○映画「芦沼」を見て、土地改良前の亀田郷でどんな稲作が行われていたかとらえる。 ・亀田郷の稲作の様子を理解し、当時の人がどんな思いをもっていたか佐野藤三郎の言葉を基に考える。				○	○土地改良前の亀田郷では沼地のような田で稲作をしていたことをとらえる。(ノート)
7	○土地改良前の亀田郷の稲作で使われていた道具を調べ、当時はどんな稲作が行われていたのか考える。 ・土地改良前の稲作で使われていた道具を調べ、どんな使い方をしていたのか考える。		○			○当時使われていた道具から、亀田郷の稲作の様子を予想する (発表・ノート)
8	○芦沼館の見学を通して、亀田郷の稲作に使われていた道具の特徴や使い方をとらえる。 ・どんな道具が、どのように使われていたか、観察したり話を聞いたりして調べる。			○		○土地改良前の亀田郷の稲作で使われていた農具の特徴をとらえる。 (観察・ノート)
9	○土地改良前の亀田郷の稲作は、今よりも時間や手間がかかり、重労働であったことをとらえる。 ・土地改良前の農作業暦と現在の農作業暦を比較し、当時の米作りが重労働だったことをとらえる。				○	○土地改良前の亀田郷での稲作は、重労働だったことをとらえる。 (発表・ノート)
10	○当時の人々は、水害を防ぐために、どんなことをしたのかとらえる。 ・大河津分水のできる前とできた後の地図を比較し、水害を防ぐために何をしたか考える。		○			○大河津分水を作ったことで、水害が減ったことを地図から読み取る。 (発表・ノート)
11 本 時	○亀田郷の稲作にかかる労働時間の変化について、栗ノ木排水機場ができる前とできた後の地図を比較することを通して、栗ノ木排水機場の稼働によって区画整理や機械化が進み、米作りの労働時間が減ったことをとらえることができる。 ・なぜ亀田郷の米作りの労働時間がわずか20年で半分減ったのか考える。		○			○地図の読み取りを通して、栗ノ木排水機場ができ、区画整理が進んだことで、稲作の労働時間が急激に減ったことをとらえる。 (発表・ノート)
12	○亀田郷の土地改良に尽力した佐野藤三郎の業績を調べる。 ・佐野藤三郎は亀田郷の発展のためにどんなことをした人物なのか調べる。			○		○佐野藤三郎の業績を理解する。 (発表・ノート)
13	○昭和20年の航空写真と現代の航空写真を比較し、土地、鳥屋野潟、河川がどのように変わってきたかをとらえる。				○	○住宅地や道路が増えてきたことや、関屋分水ができたことをとらえる。

	・過去と現在の航空写真を比較し、変化を調べる。				(発表・ノート)
14	○亀田郷の人々は今も水と戦っていることをとらえる。 ・近年起こった水害や親松排水機場、鳥屋野潟排水機場などの役割について調べる。		○		○親松排水機場・鳥屋野潟排水機場などの稼働により、水害がおさえられていることを調べる。 (発表・ノート)
15	○亀田郷に住む一人として、これまでの暮らしの変化を基に、これからの暮らしについて考えをつくる。 ・これまでの学習を振り返り、これからどのように暮らしていくかを考える。		○		○これからの自分の暮らしについて、先人の業績を基に自分なりに考える。 (ノート)

6 本時の計画 (11 時間目 / 全 15 時間)

(1) 本時のねらい

亀田郷の稲作にかかる労働時間の変化について、栗ノ木排水機場ができる前とできた後の地図を比較し、変化を読み取ることを通して、栗ノ木排水機場の稼働によって区画整理や機械化が進んだことで、稲作の労働時間が減ったことととらえることができる。

(2) 本時の構想

子どもは前時まで、信濃川、阿賀野川などの大河に囲まれた輪中地域であるという亀田郷の地形的な特徴や、現在は田や住宅地、商業地が広がっているという土地利用の様子について学習してきた。また、沼のような田でどんな稲作が行われていたのか、人々はどんな苦勞をし、どんな願いをもっていたのかについても考えてきた。前時では、水害に悩まされてきた昔の人々が、亀田郷内に水を入れないために、大河津分水を築いたり阿賀野川の改修を行ったりしてきたことを学習している。

本時では、亀田郷において米作りにかかる労働時間が減少してきた理由について、年代の違う 2 枚の地図を比較して調べたり考えたりする学習を展開する。大河津分水ができ、阿賀野川の河川改修が行われたことで、亀田郷内に入ってくる水をかなり減らすことができた。そこで、当時の人々が次に考えたのは、亀田郷内にたまっている水を排水し、土地を改良することで田の乾田化を目指すことであった。亀田郷内では、明治時代から各地でポンプを使った排水が行われてきたが、海抜の低い亀田郷内の水を排水するのは容易ではなかった。しかし、栗ノ木排水機場ができ、稼働したことにより、亀田郷内の土地の様子は大きく変わり、稲作にかかる労働時間が急激に減少していく。水と戦い続け、稲作において長い間過酷な労働を強いられてきたにもかかわらず、わずか 20 年で労働時間が半分に減ったという事実を知った子どもは、なぜそんなに稲作が楽になったのか疑問をもつであろう。昭和 20 年代初期から 40 年代初期において、亀田郷にどんな変化があったのかについて、当時の地図を基に調べたり考えたりする活動を通して、乾田化を成し遂げ、区画整理を行ったり稲作の仕方を改良したりした人々の工夫や努力についてとらえさせたい。また、亀田郷の土地改良に尽力した「佐野藤三郎」にもふれ、佐野が亀田郷の発展に力を尽くした一人であることについてもとらえさせたい。

地図を比較しながら変化や違いの原因、理由を考えたり、仲間と考えを交流したりしながら、亀田郷の稲作の発展に尽力した人々の工夫や努力について考えようとする姿を目指し、以下の 3 つの手立てを講じる

① 稲作の労働時間の変化を示すグラフを提示し、なぜわずか 20 年で急激に減ったのか疑問をもたせる。

前時までの学習と現在の亀田郷の様子の比較により、芦沼と呼ばれた頃の亀田郷の稲作と現在の稲作とでは、方法や大変さが全く違うということを感じている。しかし、いつ頃、何がきっかけで稲作が変わってきたのかについて知っている子どもはほとんどいない。

まず導入では、信濃川、阿賀野川の河川改修後の亀田郷の写真を提示し、河川改修後も水はたまったままだったことをとらえさせる。次に、昭和 24 年以前までの 10a 当たりの稲作にかかる労働時間と、当時の稲作の様子について述べた佐野藤三郎の言葉を提示し、当時の稲作が重労働であったことをとらえさせる。その後、昭和 25 年から昭和 45 年の労働時間の推移のグ

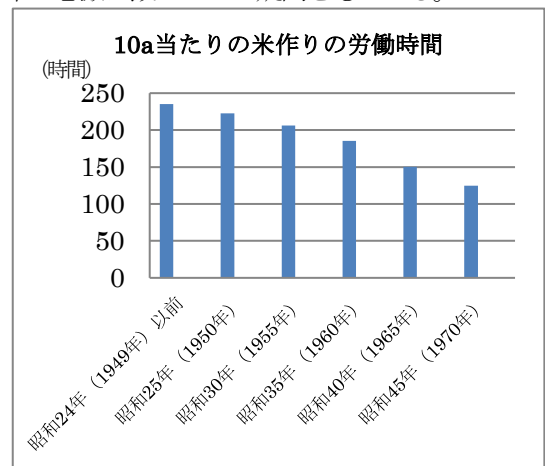


図 1

ラフを提示する。(図1参照) グラフを見た子どもは、「労働時間がすごく減っている」「なぜこんなに減ったのか」という疑問をもつであろう。この疑問を基に、学習課題を設定したい。

② 2枚の地図の比較を通して、なぜ労働時間が急激に減ったのか理由を見付けさせる

学習課題の設定後は、なぜ労働時間が急激に減ったのか、2枚の地図の比較を通してその理由を班で見付ける活動を展開する。本時で使う地図は、国土地理院発行「新潟南部」の昭和22年版地図と昭和43年版地図(共に縮尺は二万五千分の一)である。昭和43年版には、「栗ノ木排水機場」を書き加えておき、土地改良を進める上で重要だったものに気付きやすいようにしておく。

まず、2枚の地図を比較させ、違いや変わったことを見付けさせる。次に、その違いや変化がなぜ労働時間の減少につながったのか、理由を考えさせる。考える活動は班で行い、仲間同士で気付きを交流しながら、多くの発見をしたり、考えを深めたりすることができるようにする。班で協力して考えた「理由」はホワイトボードに書かせ、後で他の班とも考えを交流することができるようにする。

③ 班で資料を調べ、まとめる活動を通して、土地改良の様子や稲作の変化をとらえさせる

各班の考えを学級全体で交流した後は、労働時間がなぜ急激に減ったのか、「私たちの政令市新潟」で調べさせる。班で協力して調べ、見付けたことを班の仲間と共有しながらホワイトボードに記入させる。地図から見付けた労働時間減少の理由が当たっているかどうか、資料を根拠にして確認ができるようにしたい。その後、資料で見付けたことを全体で共有する。また、追加資料として、栗ノ木排水機場ができた時のことを懐古する佐野藤三郎の言葉(図2参照)と10a当たりの米の収穫量の変化(図3参照)とを提示する。亀田郷の田が劇的に変わり、人々が歓喜した事実や、土地改良によって、米の収穫量も増えていったことをとらえさせる。最後に、板書を基に本時の学習を振り返り、まとめをする。

佐野藤三郎さんの言葉

栗ノ木排水機場の水を排水する力は当時、アジアで一番と言われ、昭和23年(1948年)に動き出した。初めて亀田郷の田んぼが太陽のもとに顔を出した。亀田郷の農民はとびあがってよろこんだ。

図2

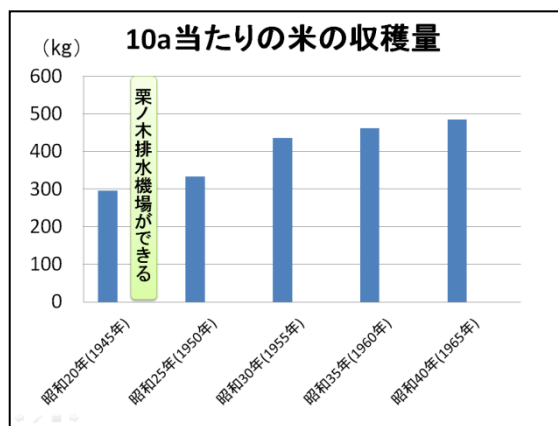


図3

(3) 本時の展開

学習活動	教師の働きかけと予想される児童の反応	■評価・○留意点
○亀田郷での米作りにかかる労働時間がわずか20年で急激に減った理由について疑問をもち、学習課題をつくる。(8分)	<p>T1 これは何を表すグラフでしたか。</p> <p>C1 水害が起こった回数です。</p> <p>T2 なぜ水害の回数が減ったのでしたか。</p> <p>C2 大河津分水を作ったり、阿賀野川を直したりしたから。</p> <p>T3 そうでしたね。では、その結果、亀田郷はどうなったのか、写真で見てください。</p> <p>C3 あれ、あまり変わってない。</p> <p>C4 まだ水浸しの田んぼだ。</p> <p>T4 水害は減りましたが、もともとたまっていた水が簡単になくなるわけではなかったので、泥田での米作りは変わらなかったのです。ちょうどこの頃に生まれた佐野藤三郎さんは、当時の米作りについてこのように言っています。</p> <p>胸まで泥水につかって米を作ってきました。水と土との泥まみれのたたかいです。</p>	<p>○前時で使った水害の回数を示すグラフを提示する。</p> <p>○まだ乾田化されていない亀田郷の写真を提示する。</p> <p>○佐野藤三郎の言葉をパワーポイントで提示する。</p>

	<p>T5 このような状態での米作りだったので、10a 当たりの米作りにかかる労働時間は、昭和24年では230時間を超えていました。</p> <p>C5 すごく大変な作業だったんだね。</p> <p>T6 この後の米作りの労働時間は、どうなっているでしょう。</p> <p>C6 あまり変わらないと思う。</p> <p>T7 昭和25年から45年の20年間で、このように変わりました。</p> <p>C7 えー、すごく減っている。</p> <p>C8 何でこんなに減ったの？</p> <p>T8 わずか20年でここまで労働時間が減ったことには何か理由がありそうですね。今日はそこを考えていきましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><学習課題> なぜ20年で、米作りの労働時間が半分に減ったのだろうか。</p> </div>	<p>○昭和24年の10a当たりの米作りにかかる労働時間を示すグラフを提示する。(他の年は隠しておく)</p> <p>○昭和25年、30年、35年、40年、45年の労働時間のグラフを順番に示す。</p> <p>○本時の学習課題を考えさせ、隣同士で発表させる。</p>
<p>○昭和22年と昭和43年の地図を比較し、変わったところを見付ける。 (9分)</p>	<p>T9 労働時間が半分に減った理由を考えるのに、今日は、2種類の地図を使います。1つは前にも使った昭和22年の地図、もう一つは昭和43年の地図です。2つの地図を見比べて、変わったところに労働時間が減った理由が隠されています。まずは、地図の変わったところを見付け、丸を付けてみましょう。</p> <p>C9 鳥屋野潟の東側の川の所に、栗ノ木排水機場というのがあるな。</p> <p>C10 鳥屋野潟の西側に川のようなものができているよ。</p> <p>C11 家が増えている。</p> <p>C12 田んぼの周りに道路ができているよ。</p> <p>C13 田んぼの形がきれいな四角になっている。</p> <p>C14 鳥屋野潟の形が変わっている。</p> <p>C15 信濃川の形が変わっている。</p> <p>T10 見付けたことを教えてください。 ※C9～15の考えを発表させる。</p> <p>T11 変わったところがたくさんありましたね。では、この中で、労働時間が減ったことにつながりそうなものはどれですか。</p> <p>C16 栗ノ木排水機場です。</p> <p>C17 田んぼの周りに道路ができたことです。</p> <p>C18 田んぼの形がきれいな四角になったことです。</p>	<p>○個人で活動させる。</p> <p>○「労働時間の減少と関係のあるもの」を視点に、次の活動で考える項目を絞りこむ。</p>
<p>○地図の変化に着目し、米作りの労働時間が急激に減った理由を考える。 (10分)</p>	<p>T12 では、なぜみなさんの選んだものが、労働時間が減ったことにつながると言えるのでしょうか。班で協力して理由を考えてみましょう。</p> <p>C19 栗ノ木排水機場ができたこととはつながると思う。</p> <p>C20 これができ、田んぼの水が減ったんじゃないかな。</p> <p>C21 田んぼの水が減れば労働時間が少なくて済むね。</p> <p>C22 田んぼの周りに道路ができたのも関係あると思う。</p> <p>C23 道路ができて車など機械が使えれば、労働時間は減ると思う。</p>	<p>○各班にホワイトボードとペンを配付する。</p> <p>○なぜその変化が労働時間の減少につながると考えたのか、下図のように理由をホワイトボードに書かせる。</p>

	<p>C24 田んぼの形がきれいな四角になったのはどんな関係があるかな。</p> <p>C25 形がきれいだと機械での作業がしやすいから、労働時間が減るんじゃないかな。</p>	<p>栗ノ木排水機場 → (理由)</p>
<p>○労働時間が減った理由を調べ、栗ノ木排水機場の稼働によって土地改良や耕地整理が進み、機械化が進んだことを理解する。</p> <p>(11分)</p>	<p>T13 どの班も理由をしっかりと考えましたね。では、「私たちの政令市新潟」を使って、自分たちの考えが当たっているか、他に理由はないか確かめてみましょう。</p> <p>C26 昭和 24 年に栗ノ木排水機場ができて、鳥屋野潟の水位が 90 cm も下がったと書いてある。亀田郷の水が引いたから、作業が早くできるようになったんだね。</p> <p>C27 用排水路や農道ができたとも書いてある。</p> <p>C28 区画整理がされたとも書いてある。</p> <p>C29 機械が入り、仕事の能率が高まったと書いてある。機械が使えるようになったから、労働時間が減ったんだね。</p> <p>T14 では、ホワイトボードを貼りましょう。</p> <p>T15 結局、労働時間が半分に減った最初のきっかけは何ができたからですか。</p> <p>C30 栗ノ木排水機場ができたからです。</p> <p>T16 栗ノ木排水機場ができて、何がなくなったのですか。</p> <p>C31 たまっていた田んぼの水がなくなりました。</p> <p>T17 そうですね。たまっていた水がなくなったら、米作りはどうなっていったのですか。</p> <p>C32 機械が使えるようになりました。</p> <p>T18 機械を田んぼまで運ぶには何が必要ですか。</p> <p>C33 車や道路です。</p> <p>T19 すごいですね。みんなの書いたホワイトボードを見ると、労働時間が半分に減った理由がしっかり書かれています。予想が当たっていた班もたくさんありましたね。</p> <p>T20 前にも出てきた佐野藤三郎さんは、栗ノ木排水機場ができたときのことをこのように振り返っています。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>栗ノ木排水機場の水を排水する力は当時、アジアで一番と言われ、昭和 23 年 (1948 年) に動き出した。初めて亀田郷の田んぼが太陽のもとに顔を出した。亀田郷の農民はとびあがってよろこんだ。</p> </div> <p>T21 栗ノ木排水機場ができた後の、米の収穫量はこうなりました。</p> <p>C34 すごい、どんどん増えている。</p> <p>T22 米作りの様子はこのように変わりました。</p> <p>C35 水がなくなって、今のような田んぼになっているね。</p> <p>C36 機械が使えるようになったね。</p> <p>T23 栗ノ木排水機場ができて、亀田郷の米作りは本当に楽になったんだね。</p>	<p>○「私たちの政令市新潟」で、労働時間が減少した理由の書いてあるところを見付け、ホワイトボードに青字で付け加えさせる。</p> <p>○栗ノ木排水機場、機械化、道路などためのキーワードになる言葉を板書しながら聞いていく。</p> <p>○佐野藤三郎の言葉を提示する。</p> <p>○昭和 20 年以降の 10a 当たりの米の収穫量を示すグラフを提示する。</p> <p>○土地改良後の田や稲作の様子が分かる写真を提示する。</p>
<p>○本時の学習で分かったことを板書をもとに振り返り、まとめをする。</p> <p>(4分)</p>	<p>T24 では、まとめをします。労働時間が減ったのは、なぜでしたか。</p> <p>C37 栗ノ木排水機場ができて、たまっていた水が減ったから。</p> <p>C38 田んぼの周りに道路ができたから。</p>	<p>○本時で学んだことを板書で振り返り、まとめをする。</p>

	<p>C39 田んぼがきれいな形になって、機械化が進んだから。 T25 では、この言葉を使ってまとめましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><まとめ> 栗ノ木排水機場ができてたまっていた水が減り、道路ができたり田んぼがきれいな形になったりして機械化が進んだから。</p> </div>	
○振り返りをする。 (3分)	T26 振り返りをします。3枚の写真を見て、この米作りをしている人たちにどんなことを伝えたいですか。まとめの言葉を使いながら、吹き出しに入れる言葉を書きましょう。	○土地改良後の米作りの様子を示す写真を提示する。 ■振り返りを基に評価する。「(4) 本時の評価」の通り。

(4) 本時の評価

B：「栗ノ木排水機場」「機械化」など、本時で学んだことを2つ入れて書くことができる。

例：栗ノ木排水機場ができて、機械を使えるようになって、米作りが楽になってよかったですね。

7 参考文献

- ・小学校学習指導要領解説 社会編，文部科学省
- ・芦沼略紀，農林水産省 北陸農政局 信濃川水系土地改良調査管理事務所 亀田郷農業推理事業建設所
- ・写真は語る 亀田の百年，亀田町，写真編集委員会編纂
- ・亀田郷土地改良区HP，<http://www.kamedagou.jp/kmd/rekishi.html>
- ・DVD 芦沼からみどりの大地へ～亀田郷の歩み～，北陸農政局 信濃川水系土地改良調査管理事務所 亀田郷農業推理事業建設所
- ・うけ継がれる遺産二十一世紀への鼓動—国営亀田郷農業水利事業の歩みとその効果—，北陸農政局 信濃川水系土地改良調査管理事務所 亀田郷農業推理事業建設所
- ・パンフレット「親松排水機場」，農林水産省 北陸農政局信濃川水系土地改良調査管理事務所 親松排水機場
- ・まんが亀田郷の歴史，亀田郷土地改良区，亀田郷土地改良区創立50周年記念事業実行委員会
- ・写真集・水と土と農民，亀田郷土地改良区，新潟日報事業社
- ・亀田郷土地改良誌，亀田郷土地改良区，新潟日報事業社
- ・DVD 佐野藤三郎物語～大地に夢を見た男の新潟未来構想～，テレビ新潟
- ・亀田工区の土地改良，「亀田工区の土地」改良編纂委員会，亀田郷土地改良区亀田工区
- ・佐野藤三郎さんをしのぶ，佐野藤三郎記念誌編纂委員会，新潟日報事業者
- ・DVD 佐野藤三郎インタビュー集，佐野藤三郎記念シンポジウム
- ・国土地理院地図，「新潟南部」昭和22年版，「新潟南部」昭和43年版，「三条」昭和6年版，「三条」大正2年版